

令和2年度 第3回三重県地域医療対策協議会 議事概要

日時：令和3年3月15日（月）18：30～20：00

開催方法：Web開催

出席者：駒田委員（会長）、竹田委員、伊佐地委員、勝峰委員、森委員、藤井委員、三田委員、小藪委員、加藤委員、相田委員、一宮委員、清水委員、楠田委員、武内委員、二井委員、湊藤委員、住田委員、西宮委員、亀井委員、大畑委員、秋山委員、山下委員、加太委員、成田オブザーバー、若林オブザーバー

1 議事

<議題>

【公開会議】

- 1、 医学部定員・地域枠制度について（資料1）
 - （1） 医学部定員について
 - （2） 地域枠の定義について
 - （3） 地域枠医師の離脱防止策について（報告事項）
- 2、 臨床研修募集定員について（資料2）
- 3、 第7次三重県医療計画の中間見直し（へき地医療対策）について（資料3）

【非公開会議】

- 4、 地域枠医師等のキャリア支援（派遣調整）について（資料4）
- 5、 その他

2 意見・質疑等

○委員、⇒事務局

<議題>

- 1、 医学部定員・地域枠制度について（資料1）
 - （1） 医学部定員について
 - （2） 地域枠の定義について
 - （3） 地域枠医師の離脱防止策について（報告事項）

各委員から異議は無く、原案どおり承認された。

【意見・質疑】

- 医学部定員125名を維持していく方向性を出していただいております、ほっとしているところである。三重県においては、まだまだ医師不足が続いており、その要因として医師を養成する大学が三重県下1つしかなく、このことがネックとなっている。例えば滋賀県においても医師不足であり大学が1つしかない。何とか定員維持は続けていただきたい。
- 医学部定員維持は続けていただきたい。医師不足である以上は定員を減らす訳にはいかないと思う。県も市町も厚労省や文科省に要望していただければ大学としても心強いと思われる。
- 現時点で、厚労省から令和5年度医学部定員の方針は出ていないが、近々出される見込みはあるのか、それとも数カ月かかるのか。

また、定員 125 名が 105 名になる場合、地域枠を減らすのか、あるいは一般枠を減らすのか。

⇒令和 5 年度医学部定員の方針が出る時期は、今のところ不明である。おそらく新型コロナウイルス感染症対応の影響があるのではないと思われる。

医学部定員が削減される場合、現在の臨時定員 20 名は全て地域枠であるため、おのずとその地域枠が削減されることとなる。

○定員の維持には、大学だけでなく、県、市町らが定員維持に向けて支援をいただきたい。

2、 臨床研修募集定員について（資料 2）

各委員から異議は無く、原案どおり承認された。

3、 第 7 次三重県医療計画の中間見直し（へき地医療対策）について（資料 3）

各委員から異議は無く、原案どおり承認された。

【意見】

○三重大学が来年度から厚生労働省の指定を受けて、総合診療医の養成に力を注いでいただける。これは自治体にとっても大きな喜びであり、この度、教授も選任されるということなので大いに期待している。これはへき地医療にも通じるところでもある。

国診協（全国国民健康保険診療施設協議会）に加盟する診療所が減少してきており、残念なことである。三重大学病院にはかねてからお願いはしているが、コロナ禍において非接触医療が注目されている。これは離島や無医村にも大いに利用できると思われるので、今後三重大学病院や県行政はこのような研究も協働して進めていただきたい。

以上